

## えひめあやめ自生環境保全会

エヒメアヤメは、アヤメ科の多年草で、4月上旬に小さな紫色の花をつけます。

国内では、九州、瀬戸内海沿岸のごく限られた地域に自生し、自生地は国の天然記念物に指定されています。

佐賀県内においては帯隈山（おぶくまやま）山麓に自生し、「えひめあやめ自生環境保全会」を軸に、地域全体で、自生地の保全に取り組んできました。



しかし、令和元年佐賀豪雨により、自生地かたわらの堰が土砂量入で埋没し、さらには土留めが崩落。長らく地域全体で守ってきたエヒメアヤメの自生地が、消滅の危機に晒されることになってしまいました。

堰と土留めの修復にかかる金額は、保全会や地域ではとても担うのが難しい額でした。

それが、全国の寄附者の皆様のおかげで、堰、土留め両方の修復工事に着手することができ、自生地は無事に守られることになりました。



ご支援いただき本当にありがとうございました。

今後も、地域の宝であるエヒメアヤメの保全活動を継続し、新しい地域の担い手へ活動を継承すると同時に、活動を通じて地域の連帯感の醸成および地域活性化に努めてまいります。

## 蓮池町自治会長会

佐賀市の中心市街地の東に位置する蓮池町は、古くは佐賀鍋島藩の支藩として栄え、煎茶の中興の祖といわれる売茶翁や江崎グリコ創業者の江崎利一氏を輩出。また、2018年にユネスコ無形文化遺産の指定を受けた、国の重要無形民俗文化財「見島のカセドリ」で知られる歴史ある地域です。

令和元年佐賀豪雨は、そんな蓮池町にも容赦なく迫りました。

大きな被害こそ免れたものの、未曾有の大雨によって、これまで知られていなかった地域内の危険箇所が多数浮き彫りとなり、一人暮らしの高齢者を始めとした要支援者の避難について、一石を投じることとなりました。



「町内の危険箇所、避難所、応援先、連絡先等の情報について、予備知識を得ておかないてはならないと感じた」という多数の地域住民の声を受けた蓮池町自治会長会では、平成25年に作成した「防災マップ」の更新を決定。

全国の皆様からの佐賀豪雨災害復興支援寄附金による支援を受け、今年5月末に町内全戸に配布するに至りました。



全国の寄附者の皆様のご寄附による新たな防災マップによって、地域住民の安全が守られていくものと確信しています。

本当にありがとうございました。

## 川上校区自主防災会本部

佐賀市中心部の北、佐賀県旧大和町内にある川上校区では、令和元年佐賀豪雨により、避難所となっている建物の周辺が浸水するという事態に陥りました。

地区の南部にある排水ポンプの稼働が順調であったことと、嘉瀬川が危険水位を超えなかったことから、最悪の事態こそ免れましたが、当校区は、急傾斜地から丘陵地、低平地とつながったところに自治会が点在している地域です。災害の備えについてのより一層の強化を、地域住民に意識づける結果となりました。

このたび、全国の皆様からいただいたご寄附により、浸水区域から避難所までの移動が可能となるボート、避難所用の電源、緊急排水が可能となる水中ポンプを整備することができました。

単に備蓄するだけではなく、住民参加の避難訓練に積極的に活用し、犠牲者を出さない「災害に強い川上」を目指してまいります。

川上校区住民一同お礼申し上げます。本当にありがとうございました。



## 土元区

当区は、古くは長崎街道の宿場町として栄え、今も佐賀県を縦横につなぐ交通拠点となっている江北町の中心部よりやや北に位置しています。

令和元年佐賀豪雨では、区内の家屋をはじめ水路、道路、ありとあらゆるところが被害を受けました。

住民の安全な暮らしを守るため、発災後すぐに県や町の補助金や、区の予算で、復旧工事を行いました。しかしながら、補助金は何かと制限があり、補助金で補えない部分にかかる金額は、区の年間予算を上回っていて、手付かずとなってしまった箇所がありました。

それにより、住民が危険な目にあったことが何度もありました。また、当然のことながら、今後のための防災用具の整備にまで、手は回りませんでした。



今回、皆様よりいただいたご寄附により実施した工事は、近隣の住民が皆、困っていたにもかかわらず、区でもできなかった、町でもできなかった箇所です。

気がかりだった防災用具も、整備することができました。

本当に、本当に、皆様方のおかげと感謝しております。

ありがとうございました。



## 下瀧区

当区は大町町の南部、令和元年佐賀豪雨により広く知られることになった順天堂病院の北側に位置しています。

当区の公民館は、油混じりの水に浸かり、公民館内に保管していた伝統行事「下瀧区浮立太鼓」の道具も、すべて失われてしまいました。

「下瀧区浮立太鼓」は、単に伝統行事というだけでなく、地域の連帯づくりの一役を担っています。

被災直後から全国の皆様から支援を受け、下瀧区は復旧、復興が進行しましたが、しかしながら、あまりの被害の大きさ、被害箇所の多さに、浮立の道具の修繕までには手が届かないでいました。

そんななか、全国の皆様よりふるさと納税を通じていただいた佐賀豪雨災害復興支援寄附金により、浮立の道具の新調、修繕が叶うことになりました。



写真提供：国土交通省 九州地方整備局

全国の皆様のあたたかな善意により、新調、修繕された道具は、令和元年佐賀豪雨により悲痛に沈んでいた当区の住民や子どもたちの勇気と支えになるものと確信しています。

今回、皆様からいただいたご寄附は、建物の復興から地域の絆への復興へと続く道において、何よりも力強い応援となりました。心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

